

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第52集

TUBO UTI  
**坪の内遺跡**

長野県佐久市内山坪の内遺跡発掘調査報告書

1997, 3

(有) 勇進建設  
佐久市教育委員会



## 内山 坪の内遺跡の調査について

坪の内遺跡が所在する内山地区は、群馬・関東方面に向かう交通路として古くより開け佐久の歴史に早くから登場する地域です。今回発掘調査をおこなった坪の内遺跡からは、道路部分という狭い範囲にもかかわらず、「竪穴状遺構」と呼ばれる中世（12～16世紀頃）の家又は小屋と考えられる跡が部分的ですが3棟見つかりました。内山には、内山城や平賀城といった城跡もあることから、遺跡周辺では当時から活発に人々が生活を営んでいた事が予想されます。

### 竪穴状遺構

中世頃より作られた遺構で、家・小屋・室といったものと考えられていますが、未だに、はっきりした性格はつかめていません。しかし、発見される場所が、中部から東北地方の北日本に多いことなどが謎を解くヒントになるかもしれません。



坪の内遺跡の竪穴状遺構



## 例 言

### 目 次

内山 坪の内遺跡の調査について

目 次

例言・凡例

第Ⅰ章 発掘調査の経緯 ..... 1

第1節 調査の経緯と経過 ..... 1

第2節 調査体制 ..... 2

第3節 調査日誌 ..... 2

第Ⅱ章 遺跡の環境 ..... 3

第1節 自然的環境 ..... 3

第2節 歴史的環境 ..... 4

第3節 基本層序 ..... 4

第Ⅲ章 遺構と遺物 ..... 6

第1節 穹穴状遺構 ..... 6

第2節 溝状遺構 ..... 10

第IV章 調査の成果 ..... 11

1. 本書は、(有)勇進建設が行う宅地造成進入路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の発掘調査報告書である。

2. 調査委託者 有限会社 勇進建設

3. 調査受諾者 佐久市教育委員会

4. 発掘調査箇所 佐久市大字内山字坪の内  
6784-2・6700-3

5. 調査期間及び面積

発掘調査 平成8年7月23日～8月2日

整理調査 平成8年8月26日～

平成9年3月31日

面 積 133m<sup>2</sup>

6. 本書の執筆・撮集は富沢が行った。

7. 本書及び坪の内遺跡出土の資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

1. 遺構の海拔標高は各遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」として示した。

2. 土層の色調は、「新版 標準土色帖」1988年版に基づいた。

3. 調査区グリッドは公共施設に従い、4×4m間隔に設定した。

# 第Ⅰ章 発掘調査の経緯

## 第1節 調査の経緯と経過



坪の内遺跡遠景（東より）

坪の内遺跡が所在する内山地籍は佐久市の南東側に位置し、地籍内を通過する国道254号線を東に進むと内山峠を越えて群馬県下仁田・富岡に至る。現在、この峠道は「コスモス街道」として有名となり、コスモスの開花時期には関東方面の観光客で賑わっている。

今回、勇進建設により当遺跡内に宅地造成の為の進入路を建設することとなり、佐久市教育委員会埋蔵文化財課において試掘調査を行った。その結果、開発地西側において竪穴状の落ち込みが確認された。よって、(有)勇進建設と当教育委員会において保護協議を行った結果、道路部分の設計変更は難しく遺跡の破壊が余儀なくなり、記録保存を目的とする本調査が実施される運びとなった。



第1図 坪の内遺跡位置図 (1:50,000)

## 第2節 調査体制

佐久市教育委員会 埋蔵文化財課

(平成8年度)

教 育 長 依田英夫

教 育 次 長 市川 源

埋蔵文化財課長 北沢元平

管 理 係 長 榊沢慶子

管 理 係 田村和広

埋蔵文化財係長 大塚達夫

埋蔵文化財係 林 幸彦 三石宗一

須藤隆司 小林眞寿

羽毛田卓也 富沢一明

上原 学

調査担当 富沢一明

調査員 堀籠 因 岩下吉代

岩下文子 岩下とも子

菊池喜重



第2図 遺跡周辺地形図（1:2,500）

## 第3節 調査日誌

1996年7月18日 試掘調査

7月23日 本調査開始 重機  
による表土剥ぎ。

7月24日 造構の検出・掘り  
下げを行う。

8月1日 造構実測・写真撮影を行う。

8月2日 機材を撤収し調査を終了する。

1996年8月26日 報告書作成作業開始

1997年3月31日 報告書を刊行する。



遺跡近景（南より）

## 第II章 遺跡の環境

### 第1節 自然的環境

坪の内遺跡の所在する内山地蔵は、東西約10kmにのびる谷地形である。南北には、それぞれ北に熊倉峰(1234m)、南に兜岩山(1368.4m)より連なる山地がせまり、谷地中央には滑津川が中小河川を集めて西流している。この谷筋は別名「内山峠」と呼ばれ、谷底には浸食により現れた奇岩が立ち並んでいる。

この谷地は当遺跡があるあたりで南北約1kmにひらけ小規模な沖積地を形成している。遺跡は北側にせまる山地より南に突き出た一支脈の東側裾に位置する。この支脈は先端部において盛り上がり、島状を呈する。遺跡と水田との比高差は約5mを測る。



第3図 周辺の遺跡位置図

## 第2節 歴史的環境

坪の内遺跡が所在する内山地籍には、南に開けた山腹や段丘上、低地に多くの遺跡が存在する。ここではこれら遺跡を時代別に概観してみたい。

まず、旧石器時代の遺跡はまだ発見されていない。続く縄文時代の遺跡としては、寄山・勝負沢・中条峯遺跡があげられる。当遺跡は縄文中期中葉から後葉を主体とする集落跡で約120軒の竪穴住居跡や多数の土坑が調査された。次に弥生時代であるが内山地籍ではまだ調査されたものはないが、西側に位置する平賀地籍の桶村遺跡では弥生中期から後期の住居跡22軒と環濠と考えられる溝2本が調査されている。古墳時代としては集落跡として同じく桶村遺跡があげられる。当遺跡では古墳時代後期(6~7世紀)の住居跡273軒が調査されている。古墳跡としては長峯古墳群の5基が調査されている。調査された古墳はいずれも径6~12m内の円墳で、墳丘は土・礫が混ざった積石塚風を呈している。主体部はいずれも横穴式両袖型玄門付石室である。また、どの古墳も周溝を持っていない。古墳からは須恵器・勾玉・耳環・直刀などが出土している。築造時期は構造上から7世紀以降と報告されている。次の奈良・平安時代も内山地籍においては集落跡の発見は報告されていないが、谷沿いに開けた平地では平安時代の土器片が採集されている為小規模な集落発見の可能性はある。最後に中世の遺跡としては内山城がある。当城は本格的な調査はなされていないが、尾根に築かれた曲輪や堀切は大規模なものも残存している。また、城下に広がる内山本郷集落は集落内の地割や小路また古屋敷の地名が良好に残り中世以来の情景を色濃く伝えている。

以上、坪の内遺跡周辺の遺跡を概観した。



## 第3節 基本層序

本遺跡の基本層序は3層に分かれ、遺構確認面は第II層上面である。

第I層 褐灰色土（耕作土層）

しまり弱くぼそぼそしている。

第II層 明褐色土（粘土層）

しまり非常にあり。

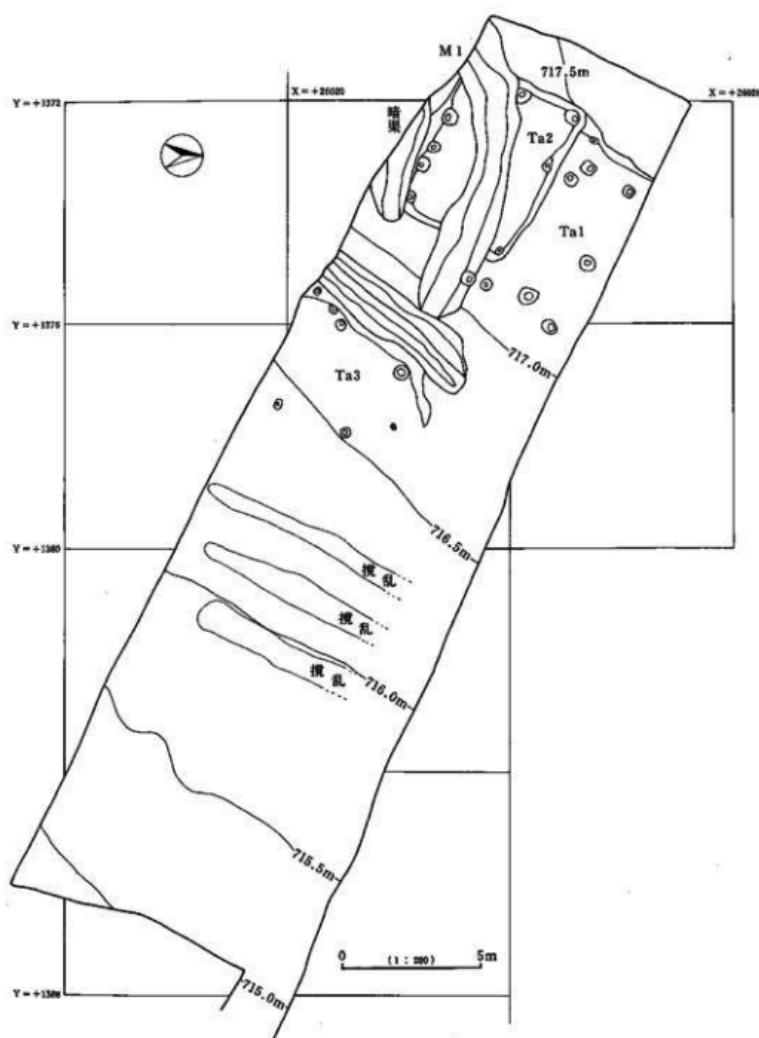
第III層 褐色土（粘土・礫混合層）

こぶし大の礫を含む。

土層断面（東より）

宅地造成部分に現れた堆積土層。

水平の縞状に見える部分が第II層で新生代、第四紀の洪積層と考えられる。中央部にみられるV字状の堆積は、「堀切」か？



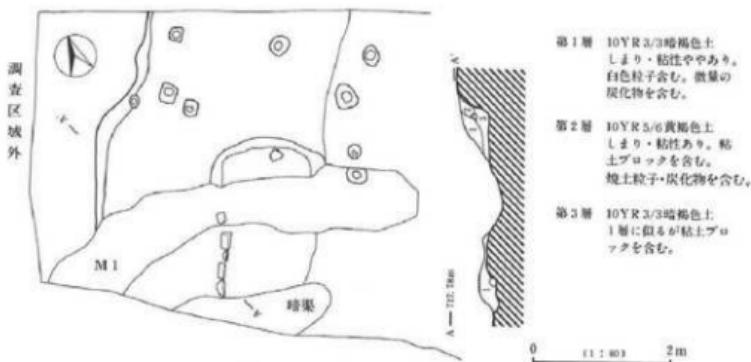
第4図 調査区全体図

## 第III章 遺構と遺物

### 第1節 壇穴状遺構

#### 1) Ta 1 壇穴状遺構

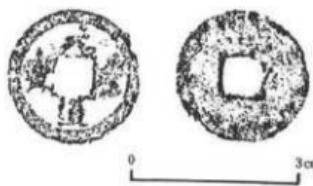
本遺構は調査区西側より検出されたが、調査範囲が狭いため全容の把握はできなかった。残存状況は検出部中央をM1溝状遺構によって、南側を近世の暗渠と考えられる溝によって壊されている。検出状況は東側が傾斜により削平され、床はやや軟質である。西側のみ遺構壁が確認された。西側壁の規模は長さ3.3m・高さ0.15mを測る。ピットは9ヵ所確認された。形態は方形を呈し、規模は一辺0.3m・深さ0.28~0.49mを測る。検出部中央に土坑が検出された。規模は残存部で軸長1.6m・深さ0.18mである。



第5図 Ta 1 壇穴状遺構全体図



配石と焼土範囲（北より）



第6図 Ta 1 出土遺物



Ta 1 壓穴状遺構全景（南より）

また、土坑南側より人頭大の礫を一列に配石した部分が検出された。この礫東側は床面よりも一段低くなっている。焼土の集中が見られたが「炉」としての火床面などは確認できなかった。本遺構の出土遺物は土器小片3点と図示した覆土より出土の古錢があったのみである。

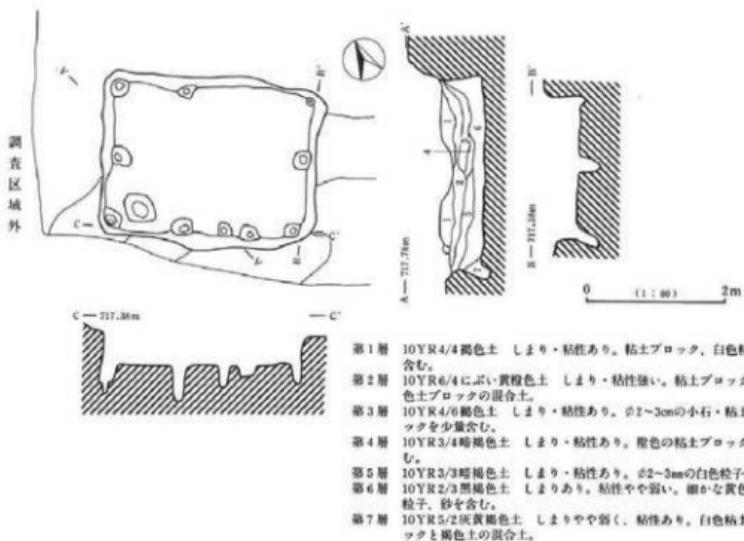
## 2) Ta 2 壓穴状遺構

本遺構はTa 1 壓穴状遺構下より検出された。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は東と南側両コーナー部分がM 1溝と暗渠によって削平されているが他は良好である。

形態は東西に長軸を有する方形を呈する。規模は東西長軸3.1m・南北短軸2.32mを測り、長軸方位はN-64°-Wを示す。ピットは10カ所で確認された。いずれも壁直下に検出され、その配置から柱穴と考えられる。ピットは方形を基調としており、規模は一辺0.15m・深さ0.22~0.43mを測る。また、南壁側のピットは5カ所と多く確認され、竪穴内側方向に傾くように掘り込まれており、上屋構造を推測する上で貴重な資料となっている。

また、西コーナー部分には、土坑状の掘り込みが検出された。規模は径0.4m・深さ0.15mを測る。覆土は炭化物・焼土が少量検出されたが、Ta 1 壓穴状遺構と同じく「炉」としての火床面等は確認できなかった。

本遺構からの出土遺物は無かった。



第7図 Ta 2 壓穴状造構全体図



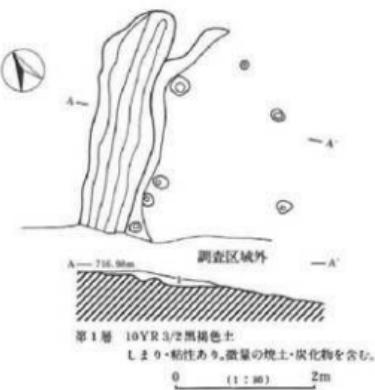
Ta 2 壓穴状造構全景 (南より)

### 3) Ta 3 壁穴状遺構

本遺構は調査区中央部から検出されたが、遺構全体は調査区南側に広がると考えられ、全容は把握できなかった。また、傾斜地である為、東側は削平されていた。

検出部の規模は西側の溝状の部分が南北長3.25m・東西幅1m・深さ0.21mを測る。東側の平坦地部分ではピットが7ヵ所確認された。規模は径0.28~0.1m・深さ0.21~0.19mを測り、形態はほぼ円形のものが多い。平坦部はやや硬質であり、地山を踏み固めた様な状態であった。

本遺構は全容が不明であった為、今回壁穴状遺構として報告したが、あるいは溝状遺構と傾斜地形を削平し平坦面を造り出したような「テラス状」遺構の可能性もある。



第8図 Ta 3 壁穴状遺構全体図

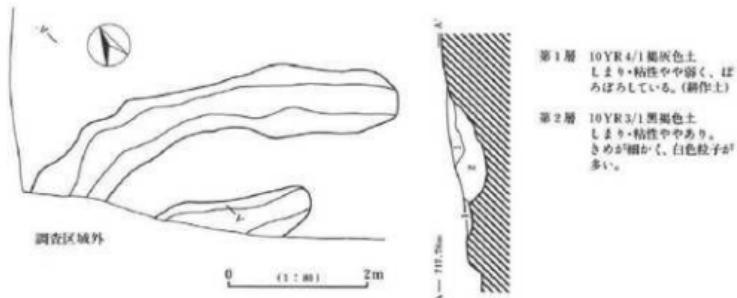


Ta 3 壁穴状遺構全景（南より）

## 第2節 溝状造構

### 1) M1 溝状造構

本造構は調査区西側で検出された。掘り方の形態は「U」字形を呈する。規模は検出部分で長さ4.9m・幅1.04m・深さ0.21mを測る。造構は調査区南側にも広がっていることが予想されるがやや南に向きを変え掘り込まれているようである。なお、南側に併走する溝は近世暗渠である。



第9図 M1 溝状造構全体図



M1 溝状造構全量（南より）

## 第IV章 調査の成果

今回の発掘調査は対象地が宅地造成進入路部分ということもあり70m<sup>2</sup>と言う小規模な発掘調査であった。その為、検出された遺構も竪穴状遺構3基・溝状遺構1本であり、出土遺物も土器片3点と古鉢が1点のみという結果であった。よってこれら遺構と遺物により坪の内遺跡全体の性格を決定しうるような結論は到底導きだせないが、ここで今回の調査にあたり気づいた点に触れ調査のまとめとしたい。

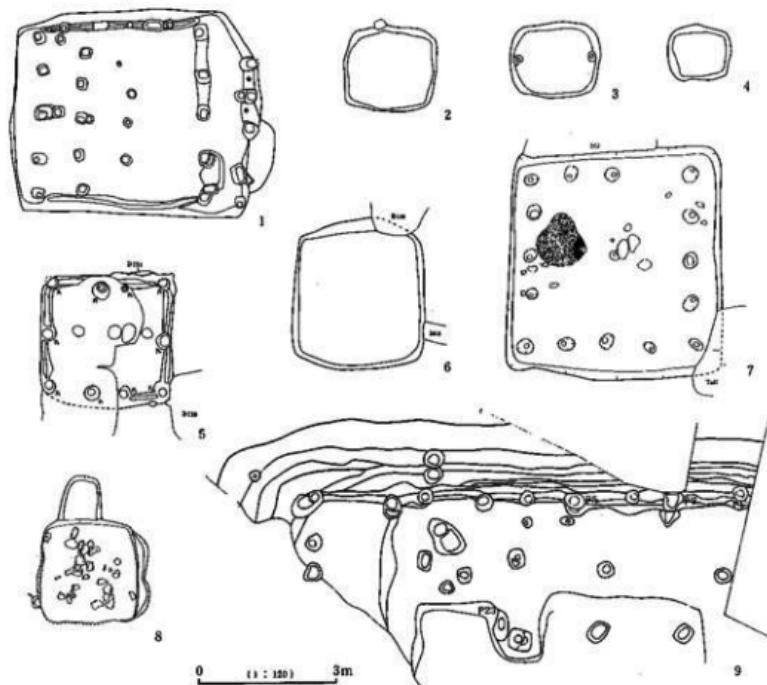
まず1点目として「遺跡範囲」の問題である。現在、発掘調査にあたっては、「遺跡詳細分布調査報告書」に記載された遺跡範囲に基づき、開発対象地と照合、試掘調査を行い調査範囲を決定している。しかし、従来より言われていることであるが埋蔵文化財の性格上、遺跡の広がりを地表面から確認にする事は限界があり分布図上の1本の線で表しきれない部分もある。現に本調査の段階で線に囲まれた範囲の外まで遺跡が存在し、開発側と再度の協議が行われたというケースもある。このようなケースを防ぐには、最初の協議の段階で遺跡周辺部までの試掘調査を申し出ることが最善策であろうが、現実には「地図に示された範囲の中が遺跡である。」と言う開発側の理解とぶつかり実現しない部分もある。今後は分布図の標記方法も含め、改善策検討の必要性を考えさせられた調査であった。



坪の内遺跡調査風景（西より）

次にいわゆる「竪穴状遺構」と呼ばれる遺構の性格についてである。関連或いは同一のものとして「竪穴遺構」・「竪穴建物址」などがある。これら遺構は中世に関連する遺跡であると普遍的に検出されるもので、現在までに佐久平においても金井城跡、黒岩城跡、前田遺跡、野火付遺跡、権現平遺跡などで検出されているが、形態・規模は一様ではない。今回の調査でも残存状況の良好なものが1基検出されている。これら「竪穴状遺構」の性格は、家或いは季節住居・作業小屋・室などの諸説がある。しかし前述したように形態・規模は多様で出土遺物もなく、また炉や竈といった火處のあるものは少ない。全国的な分布は西から東まで検出例はあるものの、若干東日本に多い傾向にあるとも言われている。「竪穴状遺構」の概略と現在までの状況を雜駁にまとめてみたが、資料の蓄積も進みつつある今日、そろそろ地域での集成と体系的な研究が必要とされる時期となっているのではないだろうか。

以上、調査の成果として感じた点についてまとめてみた。



(1~4 金井城・5, 6 前田遺跡・7, 8 大井城・9 権見平遺跡)

第10図 佐久平の竪穴状遺構各種

## 佐久市埋蔵文化財調査報告書

第1集	「金井城跡」	第31集	「山法師遺跡A」
第2集	「市内遺跡発掘調査報告書1990」	第32集	「東ノ制遺跡」
第3集	「石碑墓址群III」	第33集	「聖原遺跡VII」
第4集	「大ふけ遺跡」		「下曾根遺跡I」
第5集	「立科F遺跡」		「前藤部遺跡2」
第6集	「上曾根遺跡」	第34集	「西一本柳遺跡I」
第7集	「三貫畠遺跡」	第35集	「市内遺跡発掘調査報告書1993」
第8集	「織の下遺跡」	第36集	「蛇塚B III」
第9集	「国道141号線関係遺跡」	第37集	「西一本柳II」
第10集	「聖原遺跡II」	第38集	「南下中原遺跡II」
第11集	「赤座垣外遺跡」	第39集	「平賀中里敷遺跡」
第12集	「若宮遺跡II」	第40集	「寺畠遺跡」
第13集	「上高山遺跡」	第41集	「曾根新城 I・II・III・IV・VI 上久保田向 I・II・V・VI・VII 西曾根遺跡II・III」
第14集	「栗毛板遺跡」	第42集	「寄山」
第15集	「野鳥久保遺跡」	第43集	「権現平遺跡・池端遺跡」
第16集	「石並城跡」	第44集	「寺添遺跡」
第17集	「市内遺跡発掘調査報告書1991」 (1月～3月)	第45集	「市内遺跡発掘調査報告書1994」
第18集	「西曾根遺跡」	第46集	「満り遺跡」
第19集	「上芝宮遺跡」	第47集	「上芝宮遺跡V」
第20集	「下鶴崎遺跡III」	第48集	「池端城跡」
第21集	「金井城跡II」	第49集	「根ヶ井芝宮遺跡」
第22集	「市内遺跡発掘調査報告書1991」	第50集	「藤塚遺跡III」
第23集	「南上中原・南下中原遺跡」	第51集	「寺中遺跡・中里敷遺跡II」
第24集	「上鶴崎遺跡」		
第25集	「上久保田向IV」		
第26集	「藤塚古墳群・藤塚II」		
第27集	「上久保田向III」		
第28集	「曾根新城遺跡V」		
第19集	「山法師B、筒村A・B遺跡」		
第30集	「市内遺跡発掘調査報告書1992」		

---

### 佐久市埋蔵文化財調査報告書 第52集

#### 坪の内遺跡

#### 長野県佐久市坪の内遺跡発掘調査報告書

1997年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒384-01 長野県佐久市大字中込3056

埋蔵文化財課

〒385 長野県佐久市大字志賀5953

Tel 0267-68-7321

印刷所 株式会社 標(いぢい)

---

